



下記のものはインドの北部の牧師から訳されたEメールです。 背景→このペドン教会は現地の人が自分の畑を捧げてから、日本の兄弟姉妹からの寄付でできた教会です。 この辺りは仏教か自然崇拝が常で、教会が襲われるのはないが、家庭内でクリスチャンは迫害されている話しをよく聞かせています。

=====

ペドン教会について、ハイ！教会の中で小さな学校をやっています。 いろいろと大変だけど、村の人と教会員の依頼があって、開けました。 この辺りの学校は安息日でも開いているので、教会員の子供は困っています。 ここでは月曜日から金曜日まで開いて、SDAじゃない子でも安息日に来て、安息日学校で賛美歌を習ったりしています。 教会内の学校を開いてから子供の間に多くの良い変化が見られます。 机とか椅子がないから、子供は床の上で座って勉強する。 この子供たちはHMMC卒業者のビベクとマンガルミト夫婦、兄弟姉妹、に教えられています。(HMMCは牧師が設立した公式の団体で、これで信者を育成する事を合法的にできます)。 この夫婦に給料を与えないが、時おり 5,000 円ぐらい渡す。 教会員も手伝って、米、豆、野菜などを分け合う。

子供はかなり貧しい家から来る。 孤児とその状態に近い子供もあって、月謝を払う能力がありません。 村人のほとんどは日雇いか小さな畑で農業を原始的な耕し方でなんとか生計を立てています。

この小さな学校を作った目的は、子供に教え、彼らが明日神様のためにリーダーになれる事と、本当の救い主は誰であるかを理解に至る事です。 それに、村人と接して、三つの天使のメッセージを伝える機会がこの子供たちを通して開かれる。 直接説教をするのは難しいので、村人の心を開けるには学校が良い手段でしょう。

今度の学期で生徒数が増える見込みがあります。 それで、村人と相談の上で、家計がしっかりとした家族から月に 200 円ぐらいの月謝を請求するつもりです。 教会内の学校は好ましくないのので、できれば、教会の脇に木造の部屋を三つぐらい持つ小屋を作りたい。 これは 30 万円ぐらい掛かると思います。



写真はペドン教会内の学校の様子です。 今は 35 人の子供が習っているが、増えるでしょう。 この子供の多くは人生に目標がなくて、ただ家の手伝いとして薪を集めたり、水を運んだり、山羊を追ったりした毎日でした。

=====

これを書いた牧師は最近シンガポールでの教授の求人頼まれ、月収が今の 15 倍でも「お金はいくらでも、神様の仕事が多すぎて、手を引く場合じゃないよね」と書いてくれた。 エレン・ホワイトの本の翻訳、普及にも力を

入れています。 金銭的に協力できるかどうかはともあれ、祈りが一番大事で、宜しく願います。